

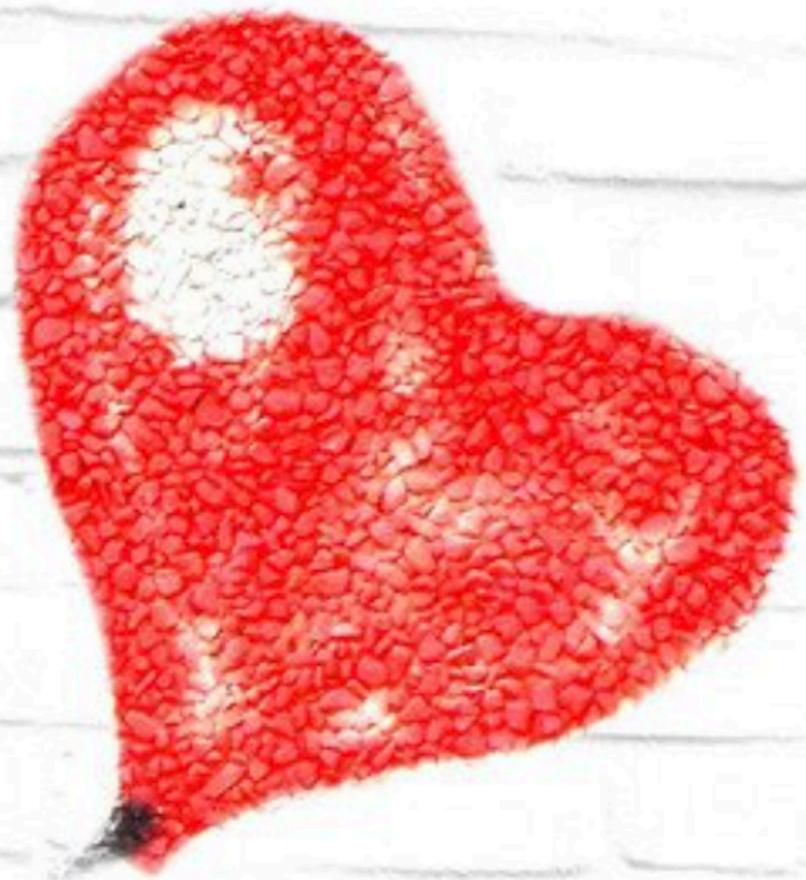
WISH TIMES

Version.41
January 2021

「
さ
よ
な
ら
。」「



明るい背中
さよなら7階特集
東京は森の中
卒寮RAインタビュー
RAお悩み相談コーナー



目次

3

明るい背中

6

さよなら7階特集

10

東京は森の中

13

卒寮RAインタビュー

17

RAお悩み相談コーナー

明るい背中

花をもらった。黄色い薔薇を一輪。その鮮やかな黄色はwishの真っ白な壁によく映えて、本当に綺麗で、その花のために乱れた生活リズムを正そうとさえ思った。そしてだんだんしおれていくのを見てひどく悲しくなった。すこしずつ茶色くなっていく花びらのふち。私がもらった花なのだから私が捨てなくてはいけないことは重々理解していたが、それでもふと部屋に来た誰かが知らないうちに捨てておいてくれればいいのに、と思った。実はまだリビングにその花はあって、私のわがままで薔薇にとっては不本意かもしれない姿をとどめてもらっている。

何かと過ごす、最後の時間が苦手だ。「何か」はあるときもらった花だったりするし、またあるときは友人や先輩後輩だったりもする。

いつ捨てるべきなのか

何か言うべきなのか

いつ背を向ければいいのか

そんなことをぐるぐる考えていると神妙な顔になってしまう。

正しい別れ方なんてものは全くと言っていいほど掴めていないのに、今年もまた新しい最後が幾つも転がっているはずで、どこか遠い気持ちになってくる。

Writer: Haruka

Translator: Naomichi

Designer: Ainun



しかしどちらかというと、去っていくのを見送る側は楽である。好ましいもの、そうでないものどちらを相手にしたって、ただそこに立って小さくなっていく後ろ姿を見つめていればよい。相手が人なら、その人が振り返ったときに、まだ見ていますよ、と手を振ったり笑ったりできればなおよい。悲しくてたまらなくて前に進んでいけなくても、時間がある限りそこに立ち尽くしていることが許されている。でも、つい泣くことはあっても、泣き叫んで引き留めることは多分この先一生ない。私は大人になってしまったので。それでも悲しいものは悲しい。だからそこでは静かな感情を受け止めることに専念して、立ち尽くしていてもいい。

好ましくないひとから去るのはもっと楽だ。にっこり笑って背を向けて足取り軽く歩いてゆけばよいのである。

辛いのは、好ましいひとのもとから去るときだ。

私が暗くなると相手も暗くなるから無理して笑顔でいる。会話をいつも通り楽しんでいふりをするが、それはあくまでもふりなので、どこかいつもと違ってぎこちない。じゃあ、と切り出すのは去る側の役目だ。これが苦手だ。だって私は相手のことが好きなのである。いつまでだって隣にいてほしい。嫌だなあ。そんな気持ちを抑えて何とか切り出して、そしてそのあとは背を向けて、歩き出す。これも苦手だ。置いてきた相手が絶対に自分の背中を見ているのがわかっているから。しばらくあと、振り返ることは、私にはできない。もしも振りかえった先にもう相手がいなかったら、と考えると一度も振り返らない薄情な奴だと認定された方が数倍ましである。

たとえ一瞬でも「去る者」の背中として好きな人たちの目に映るのなら、良い背中であって歩きたい。見ている人たちに余計な心配をさせるわけにはいかないから、明るい背中がいい。何事にも執着していませんよ、という風に飄々と歩くことは私にはできないけれど、悲しくてもちゃんと歩いています、と相手に知らせるような、そんな背中をしていきたい。たくさんの背中を見送っていく中で、素敵だなと思える背中に出会えたことは何度もある。私もそれに続くべく頑張っているつもりだが、できているのか非常に不安である。明るい背中ができるように、何がやりたいのかわからない毎日のなかで、少しずつでも新しいものへ向ける熱意とか希望とか、そういう明るいものを見つけていけたら、と思う。でも私はまだ大学では一年生で、きっと見送ることの方がうんと多い。誰かの背中を見つめる春が、今年はある。

SPRING IS COMING—

yet another spring to be carefully observing the dazzling figure of people departing from where I stand, with sentiment and regret.





2021年春、長きにわたる7階男子の歴史が終わりを迎える。今日に至るまで約2年間7階で生活してきた筆者としても、第二の実家である7階に対する思い入れは強い。3月から女子フロアとなる7階には二度と赴くことができないことに、一抹の寂しさも覚える。しかし、7階というコミュニティは、場所ではなく人との繋がり。これだけは絶対に朽ちることのないものであると筆者は信じている。そこで今回は、7階の歴史や伝説を現在7階に住んでいる寮生のインタビューとともに紹介していく。7階が紡いできた野郎たちの魂や伝説は、きっと永遠に我々の心の中で、熱く燃え続けていくことだろう。

さよなら 7階特集

Writer: Koki
Translator: Nao
Designer: Ainun

7階寮生インタビュー

RA ルイージ

• 7階での印象深かった経験

誰よりも長くWISHの7階を見てきた僕にとっては、7階にまつわるエピソードはたくさんあって述べきれないほどです。7階フロアRAのたいせい&みつきお別れパーティーのことや日々の他愛もない会話の中にも、7階らしさあふれるクレイジーな伝説がありましたね。そんな中でも、僕にとって印象深い経験は、緊急事態宣言下のコロナ疎開におけるエピソードです。

新型コロナウイルス感染拡大に伴い、実家への帰省を要請された僕は、日本にWISH以外に帰る家がなく困っていました。そんなときに、声をかけてくれたのが同じ7階に住むY.S君でした。彼の地元は小豆島で、僕はそんな彼と一緒に彼の実家に約3か月間住むという非常に貴重な経験をしました。そこで、今まで知らなかった地方の実情や、日本の生活の一面を知ることができました。ホームステイの経験をしたことがなかった僕にとっては、そこでの毎日の全てが新鮮でした。それ以前に、シティボーイの僕にとっては、そもそも地方での生活が初めてで、ゆったりとした生活をおくることができました。僕とY.S君は、バックグラウンドや学部、趣味から将来の目標まで全く異なります。7階という場所がなければ、仲良くなることはおろか、知り合うことすら叶わなかったと思います。そんな唯一無二の親友と巡り会うことができたのも、僕の大学生活が充実したものになったことも、全部7階のおかげですね。

• 7階伝説の男は誰

僕にとっての7階伝説の男は、やっぱりB.M君ですね。彼のぶっとんだエピソードは数えきれません。ある日の深夜3時頃ぐっすり寝ていた時に、部屋のインターホンが鳴ったんですね。寝ぼけながら、インターホンに応答すると、そこにはB.M君が立っていました。寮生の怪我など緊急を要するアクシデントが起こったと思って、本当に心配しました。話を聞いてみると、彼は「ルイージさん、こんばんは。ワークライフバランスについてどう思いますか」と言い出しました。今となってはこのエピソードはむしろ好きですけど、当時は本当にクレイジーだと思いましたね。彼はやっぱりレジェンドですよ。私は大好きです。

寮生 あつし「現2年生」

• 7階での印象深い経験

この2年間、7階というコミュニティを通して、本当に多種多様な経験をしました。そのどれもが印象的でユニークな記憶の連続です。特に、7階寮生における団結力とそれぞれの自己主張の強さは今でも鮮明に覚えています。寮生活が始まったばかりの頃は、本当にみんな前に出よう、前に出ようと必死な感じがすごくて、今考えれば本当に面白おかしく感じます。なかでも、カレーパーティーと入寮式ではその7階らしさが如実に表れていたと感じます。入寮初日に行われた初のフロアイベントであるカレーパーティーでは、最初の自己紹介の時点から、それぞれが個性全開でした。寮生のバックグラウンドや趣味も本当にさまざま、そんな多様性の中で2年間の生活ができたことは、WISHに入ってよかったことのひとつです。そんな自己紹介も、最終的には下世話なトピックに走っていったのは今でもよく覚えています。思い返してみるとひどいものですね。ちなみに僕自身、自己紹介の最後にマイナーな野球選手のものまねをして、おもいきりすべったっていうのはここだけの話。また、入寮式で、『7thFleeeeeeeet!!!!』と7階寮生全員で叫んだことは、忘れたいけど忘れられない、むしろ今となっては愛おしい思い出ですね。

女子階との合同イベントで突如恋ダンスを踊ってみたり、BBQの時にスピーカーで音楽を流して河原で踊ってみたり、女子階との鍋パーティーで気になる子に連絡先の交換を要求したりと、愛すべき馬鹿馬鹿しいエピソードは尽きませんね。

• 7階でよかったこと

綺麗な景色が窓から見えることは7階でよかったことのひとつですね。男子フロアの中では最上階ということもあって、天気の良い日には、澄んだ空に映える富士山がとてもきれいに見えます。これを朝見することができただけで、一日の生産性が飛躍的に向上します。夕方になれば、夕日が街を茜色に染めあげて、オレンジ色の東京を臨むことができます。これだけでも7階に住んでよかったと思えます。ただそれ以上に、7階の個性的な素晴らしい友人たちに出会えたことは7階でよかったと言える一番の要因ですね。これに尽きます。あくまで個人の意見ですが、特に7階は個性豊かなメンバーがそろっていたと思います。ここではあまり声を大にして言えないお馬鹿エピソードもたくさんありました。本当にいろんな人がいましたね。彼等との共同生活は大変でしたが、今思い返すと本当に充実した毎日でした。ネガティブな部分を述べてしまいましたが、そんなやつらにも、実は陰で努力を惜しまなかったり、凛々しい部分を備えていたり、自分の考えや軸を持っていたりと尊敬できる面も多分にありました。7階での出会いを通して、ひとつのものさしで人を図るのではなく、多角的な視野を持ち、柔軟に物事を考えることの重要性を再認識させられましたね。また、そのような人々との交流を促していく雰囲気やコミュニティづくりに尽力してくださった7階RAの皆さんには本当に感謝しています。



寮生 櫻井「現1年生」

• 7階での印象深い経験、出来事

上野公園のイベントにおける出席率や、WISHパーカーの購入率において、7階男子寮生がほかの階と比べて異常に高かったというのは、かなり印象的な事件でした。こういったことから、7階寮生のWISHに対する愛や熱意が如実に感じ取れます。オンライン開催のイベントに関しても、7階のメンツと共に盛り上げることができて、非常に充実した時間を送ることができました。今年度はコロナの影響もあって、対面イベントにまともに参加することができず、寮生間における交流が発展する機会が比較的少なかったですが、その分、毎日の他愛もない時間を大切にすることができたとも思っています。

• 7階でよかった？よければ具体的に

居心地のいい仲間と出会うことができたという点で、7階で大学生活を送れて良かったと心から思います。中学や高校のようにクラスルームが存在しない大学において、同年代の仲間とこんなにも長い時間を共有できる経験は本当に価値あるものだと実感しています。7階寮生のみんなはそれぞれ、様々な分野や側面で秀でた才能を持っており、そんな彼らとの共同生活は、私に刺激を与え、プラスの影響をもたらしてくれています。加えて、忌憚なくなんでも言い合える仲間や家族のような存在を作れたという意味でも、7階というコミュニティは僕にとってかけがえのない心の拠り所です。

また、新型コロナウイルスが猛威を振るう時代において、7階の寮生は皆がそれぞれ自覚を持った行動を心掛け、感染拡大防止につながるマナーを怠らなかったという点でも、彼らを心より尊敬しています。共通の目標に向かって切磋琢磨することができた友人とは、一生の付き合いにしていきたいです。

• ほかの階に移るにあたってどういう心境

7階という場所を手放すことに関しては、やはり少し寂しさを覚えます。しかしたとえ住む場所が変わったとしても、“7階”というコミュニティが紡いでくれた関係性やつながりは決して消えないと信じています。この半年間で培われた交友関係や経験という種子は、きっと次のステージで大輪の花を咲かすことだと思います。新しいフロアで待っている多種多様な人々とのさらなる出会いが楽しみです。



7階にゆかりのある人々 (RA) からひと言メッセージ

みつきさん (元7階RA)

思い出がたくさん詰まった7thFleetがなくなるのは正直とても悲しいです！新生7階になっても、7thFleetのクレイジーな雰囲気を受け継いだフロアになって欲しいしね。

けいんさん (元寮生・現5階RA)

7階のクレイジーさが好きでした。

かいと (現7階RA)

7階はいいフロアでした。

よしひろさん (現7階RA)

寮生・RAとして計3年過ごした7階は僕にとっての「居場所」でした！新寮生のみんな、男子フロアとしての7階はなくなってしまふけれど、そこでの出会いとたくさんの思い出を胸に新しいフロアを楽しんで欲しい！僕も「7階の記憶」を心に留めて、卒業後も歩んでいきたいと思います！Von voyage, 7th Fleet!!

むさし (元7階寮生・現3階RA)

『集り散じて 人は変れど 仰ぐは同じき 理想の光』

最高のフロアでした。7階の寮生諸君、他フロアでも7階スピリッツの発揮よろしくお頼み申します！
オウオウオウオウー

7th fleet!! フレーフレフレフレ! ☒

たいせいさん (元7階RA)

卒寮おめでとう！7階のみんながこれから世界でかっこよく活躍することを応援しています！あと、卒寮したからには大成さんと呼んでね！



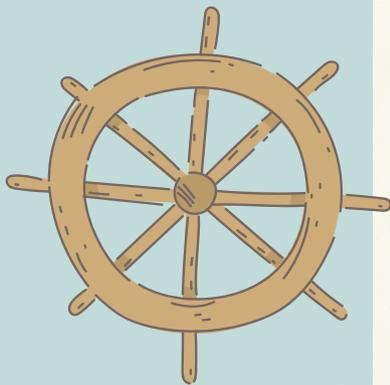
まとめ



'7thFleet'

これは7階のテーマであり、シンボルでもある

僕ら7階寮生は、WISHに入寮したその日から、第七艦隊の船員のひとりとなり、この7階という母船とともに長い旅に出た。その旅路には、落単という荒々しい波が立ちはだかる日もあれば、Aプラス獲得や課外活動での成功といった、温かい風が優しく包み込んでくれる日もあった。我々は大学卒業や自己実現を目標に、この7thFleetとともに戦い続けてきた。



どんなに失敗して挫折しても、この船に帰れば、傷は癒され、次の戦いに向けて頑張ることができた。



そして、7thFleetはその役割を終え、我々は長らくお世話になった母船から巣立つ瞬間がやってこようとしている。7thFleetで経験した成功や挫折、友とのかけがえのない思い出や繋がりの数々が、今後もきっと我々7階寮生を支える糧となる事だろう。7thFleetの船員たちの旅は終わらない。



writer: miyumi
translator: yui
designer: yukie



東京は森の中

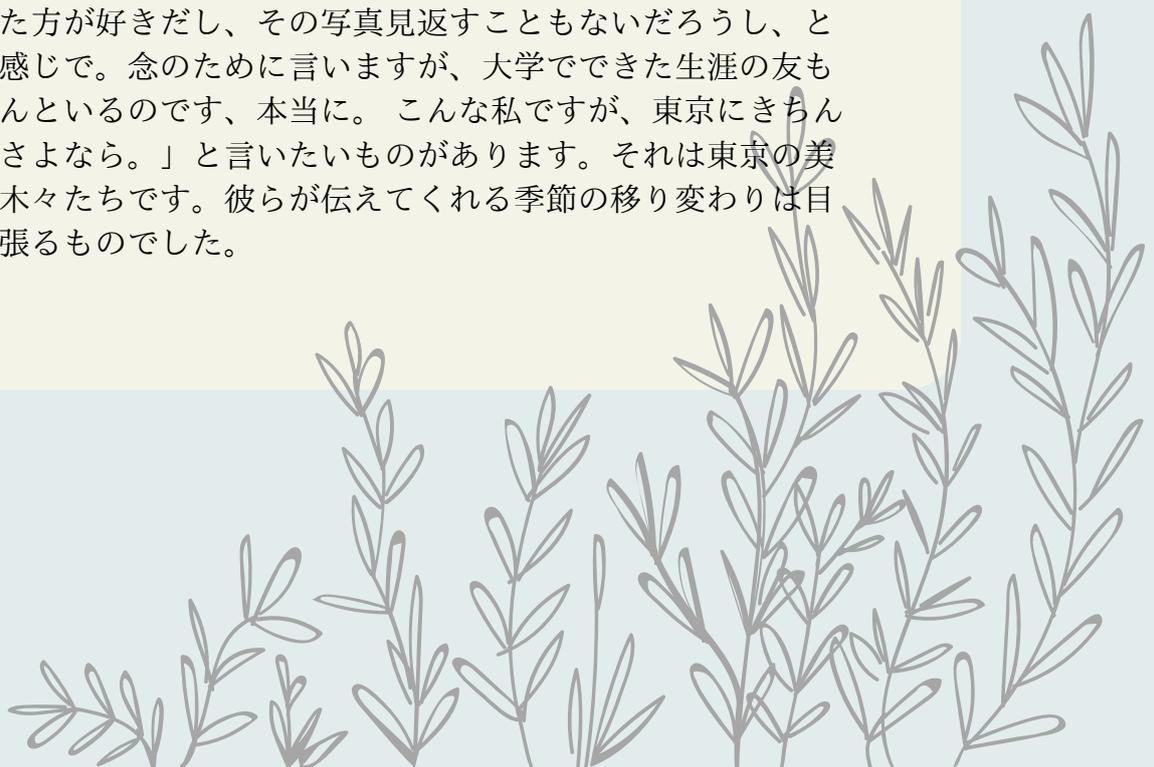
Tokyo is in the forest

1年と半年、この大切な大切な、雑誌の編集に携わってまいりました。3月に卒業を向かえるにあたり「締め切りまもってよ！」とライターのお尻を叩く仕事からも卒業し、最初で最後の書く（といえるようなたいそうなものではありませんが）側にまわってみたくペンをとります。

今回のテーマは「さよなら。」ということで、いろいろなおもいがあります。大学にも寮にも、友にも、そして東京にも私はその言葉を投げます。さよなら、より、またね、の方がいいとか言われますが、約束もできないのにその小さな責任感が苦手です、私はあまり好んで使いません。長いピアスに髪が引っかかるようなそんなきもちのわるさです。だからこのテーマを編集長から聞いた時すこし嬉しくなっていました。長く一緒にこのWISHTimesを作ってきた仲間と、その感性を共有できたようでした。

前置きが長くなりました。

もしかしたら私は人との縁とか繋がりにはあまり執着しないタイプかもしれません。けれど決して薄情な人間ではないのです、本当に。そんな私は大学の卒業式も出ないし、卒業アルバムの写真撮影にも参加しませんでした。まあ、実家の猫と遊んでいた方が好きだし、その写真見返すこともないだろうし、という感じで。念のために言いますが、大学でできた生涯の友もきちんといるのです、本当に。こんな私ですが、東京にきちんと「さよなら。」と言いたいものがあります。それは東京の美しい木々たちです。彼らが伝えてくれる季節の移り変わりは目を見張るものでした。





私は九州の田舎で生まれ育ちました。その土地の一番高い建物は学校でした。通学路は桜とイチヨウがあって、家の庭には、金木犀、しだれ梅、紫陽花、栗も植えてあります。手入れはされていませんでしたが、美しい庭でした。どれも陽の光を浴びて、雨も多く降り、ぐんぐんと育ちすぎるので、手入れが追い付かないのです。街中の街路樹も同じで、伸びきった桜の枝のトンネルが好きでした。学校のそばの藤の花は垂れ、地面に寝転がると星が降ってくるようでした。

なので上京して、街路樹を見た時は驚きました。細くてなんと頼りない枝なのだと可哀そうでした。何よりビルの陰に隠れてしまい、あ的一本だけ小さいなあ。なんて気付くと見ていられませんでした。木々が衣を変える時はその格差は顕著に現れます。影に隠れない木々は、たくさん花をつけたり、青々と茂ったりしました。ですが、早く散ってしまうのもその大きな木でした。一方、西日しか当たらないような貧しい木は細く長くその命を燃やします。周りの木の葉が散っても生き続けるその木は、いつもひとりぼっち。持久走で最終グループの、しかも最下位を競っていた私と重ねました。ちなみに中高6年間の話です。





早朝の鳥たちは群れになって飛びます。ぐるぐると飛び回り、ある角度にくると、ビルの隙間から陽の光にあたるその一瞬、銀の鳥に姿を変えます。初めてそれを見た時あまりに美しくて驚きました。ありのままの翼を輝かせて飛んでいる鳥たちに比べると、気取ってヒールを履いていた自分が滑稽におもえてたほどでした。夕焼けでは見たことがないので、おそらく朝焼けのときだけでしょう。冬はつとめて。とも言いますので、朝の遅いこの時期にぜひ見て欲しいです。木も同じように光にあたると、美しい光が反射して、こちらは黄金色というのでしょうか。眩しさと美しさに心を奪われます。しかし、鳥とは違って動くことができず自ら太陽の方に向かうことはできません。

私はそのことにまた、しくしくとしてしまいます。

森と林の違いを知っていますか。コロコロ話が変わってしまうのは私の悪い癖ですが、もう卒業する人間の駄文と思って、どうかお許しを。そう、森と林。森は手が付けられてない木々の集まりで、林は人の手が加えられたものだそうです。規模は関係ないのだとか。林は人工的に同じ時期に同じ木を植えられている事が多いので、成長の度合いはもちろん、緑が萌ゆるときも紅に染まるときも同じだそうです。逆に森は生育環境に差があるので、それらの変化も差があるそうです。これはほんの数か月前に知りました。

そう考えると、都会の木々は森の中に生きているのかもしれない。

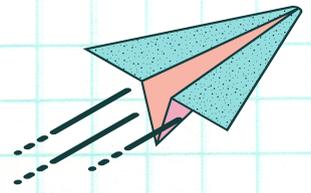
ごめんね君たち。と、そして謝りたい。君たち自然のものなのに、人間がつくった建物で光を奪われて、土もこんなに痩せて、人間の都合で切られちゃってさ。なんて不憫におもっておりました。だけど勝手に木々を比べて、可哀そうな存在にしてしまっただごめんね、と心から申し訳なくおもいます。みんなそれぞれ四季を健気に伝えているのに、不平不満言わず生きているのに。あなたたちは都会の森で、生まれてこのかた、それぞれその根を下に下にぐんぐんと伸ばしていたのね。

およそ2年とちょっと東京に住みましたが、その歳月をかけて、研ぎ澄ましたものを木々の色に投影し、蓄積して、気付いたことをまずは胸にしまします。そして別れを惜しみたい。

東京の木々よ、さよなら。

[RA's LIFE~ 卒業RAインタビュー]

ライター: Moeka | 翻訳: Moeka | デザイン: William



WISHTimesの連載企画「RA'sライフ」第二弾です！このコーナーでは毎回異なるRAをピックアップして、普段はなかなか知ることができないRAの姿を紹介していきます。さて、今月は卒業シーズン間近ということで、2名のRAに卒業前インタビューを行いました。その2名とは、9階RAのりおんさん(政治経済学部4年)と4階RAのよしとさん(人間科学部4年)です！お二方とも多忙な毎日をお過ごですが、今までWISHのSI・イベントなど様々な活動を盛り上げてくださいました。お二方が今までどんなRA活動を行ってきたのか、RAに対する熱い思いとともに迫り行って行きたいと思います。それでは、ぜひお楽しみください！

9階RA りおんさん

1. まずは自己紹介をお願いします！

政治経済学部4年のりおんです。高校まではずっと兵庫県に住んでいて、お笑い大好き関西人です。大学で上京するまで東京にはほぼ来たことがありませんでしたが、このよ4年間は最高に楽しかったです！

2. なぜRAになろうと思ったんですか？

大学に入ったとき、同じ高校の友達も先輩も一人も知り合いがおらずとても不安でした。そんな時に、温かく迎えてくれたRAのみなさんがとてもかっこよく、私も寮生をサポートできるようになりたいと思ったからです。

3. RAで一番楽しかったことは何ですか？

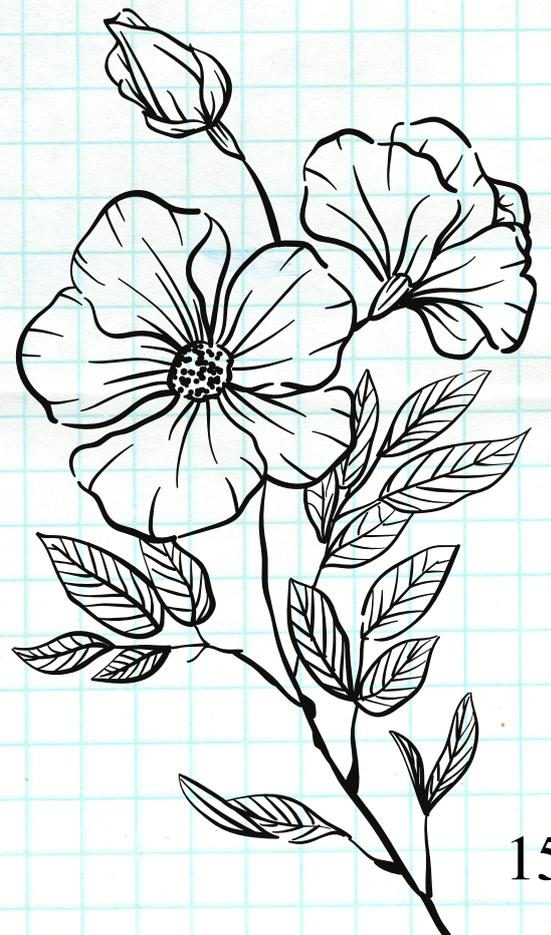
WISHのSI海外アワード研修にRA参加させてもらい、マレーシアに行って現地のパナソニックの方々と一緒にフィールドワークをしたことです。全く知らない環境でゼロから取り組むプログラムはとても刺激的でした。こんなご時世ですが、コロナが終わればまたぜひ皆さんにアワードに挑戦してもらいたいなと思います。

4. 落ち込んでしまったとき、それをどう乗り越えていますか？

自分の選択を後悔しそうになったときは、自分の選択を正解に導くことができるのは自分だけだ、と思って頑張ります！あとは、大好きな明石家さんまさんの「生きてるだけで丸儲け」という言葉を思い出して乗り越えます。

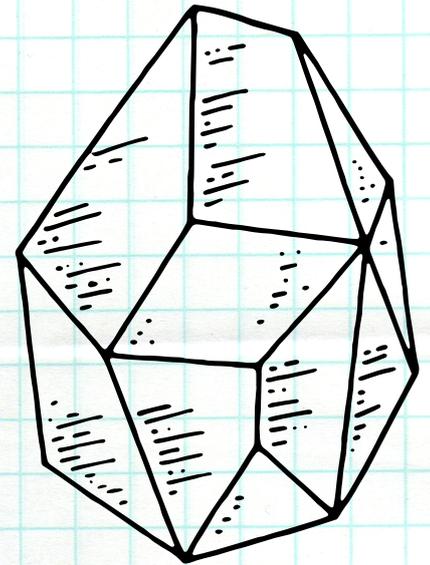
5. 自分にとってRAとは？

最高に楽しくて頼もしい仲間たちです！



6. RAになって得られたスキルは何ですか？

1 いつも笑顔でいること。大変な時もありますが、RAが険しい顔だとフロアも暗くなっちゃうと思うので、自然といつも笑顔でいれるようになりました。2 調整力。一つのイベントでも予算やスケジュール管理など、やることがたくさんあるので、色々な人と調整しながら前に進める力がつきました。

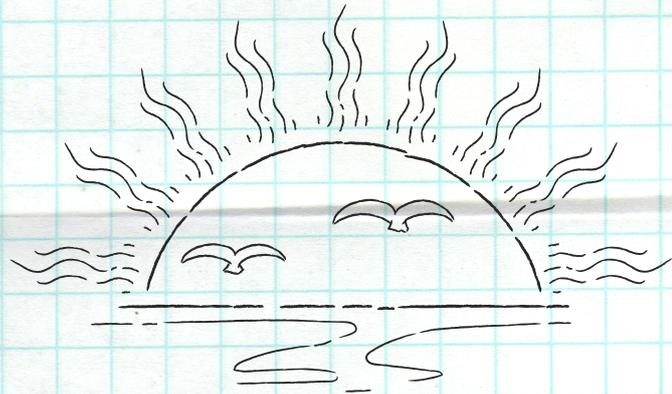


7. 今までどんなアルバイトをしていましたか？

大学のICC（異文化交流センター）でアルバイトをしていました。元WISH生や元RAもたくさん働いているので、ぜひ興味のある方はチェックしてみてください☆

8. 日々の日課は何ですか？

朝コーヒーを飲むことです。頭がなんだかさえる気がしますね。



9. 大学卒業してからはどんな目標がありますか？

SIプログラムで登壇できるようなBIGな大人になることです！いつか帰ってこれたらいいなあ～

10. 最後にWISH生達に伝えたいこと！

まず一つ目はWISHでできた人との縁をぜひ大切にしてください。私の同期の多くはもう卒業してしまっていますが、今でも定期的に合う大切な仲間です。いつも同じ場所で生活しているとなんか忘れがちですが、WISH生はいつ会っても居心地がいいと思います。二つ目はぜひWISHのリソースをたくさん活かしてください。寮外研修もSIも、今思うと本当に素晴らしい機会になると思います。これらを活かしてぜひいろいろな人に会って、自分の視野を広げてみるといいと思います。



4階RA よしとさん



1. まずは自己紹介をお願いします！

みなさんこんにちは、よしとです！植物を育てるのが好きです。

2. RAで一番楽しかったことは何ですか？

みんなでウェルカムBBQパーティの運営をしたこと。☑

3. RAとしてやり残したことは何ですか？

登山イベントがやりたかったです。☑

4. WISHでの武勇伝はありますか？

残念ながら特にはないです、、、☹

5. RAで一番のやりがいは何ですか？

寮生たちに頼ってもらえることが自分の自信へと繋がった気がします。

6. 得意料理は何ですか？

スパイスカレーを作ることが一番得意です！☑

7. 今までどんなアルバイトをしていましたか？

飲食店と花屋でバイトしていました。☑

8. 何をしてる時が一番幸せですか？

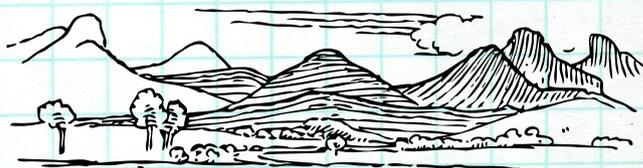
I料理をする時や大事に育てている植物の成長を見守る時が一番幸せだと感じます。

9. WISHに入寮して良かったと思うことは何ですか？

勉強以外も完璧にこなす刺激的な友人に今まで出会えたこと。自分の地元である茨城には出会えなかったと思います！

10. 最後にWISH生達に伝えたいこと！

今を楽しむことに尽きると思います！ただ楽をして生きるのではなく、何か目標に向かって努力し続けることを楽しんで欲しいですね。



編集者からのコメント：

りおんさんとよしとさんは私が心から尊敬しているRAなので、今回はこうしてインタビューを引き受けてくれて嬉しかったですし、少しでも関わることができて良かったです。 やっぱりもうすぐ卒業だと思えば寂しくて、本当はもっと一緒にRA活動をしたかったです。何よりコロナ禍で対面イベントがあまり行えなかったことが非常に残念でした。私がよしとさんに初めてお会いしたのは、WISH入寮案内ツアーでよしとさんの担当グループにいた時でした。よしとさんと他のRA率いる静岡県の現地研修に参加した際にも、色々RAについてお話を聞いたり、真剣にRAとして取り組む姿を見て、私もよしとさんみたいなRAになりたいと決心しました。これからは私もお二人のように、WISH生から慕われるRAになれるように努力していきたいと思います。りおんさん、よしとさん、ご卒業おめでとうございます。今まで本当にありがとうございました！また機会があれば是非WISHに遊びに来てくださいね。



RAお悩み相談コーナー

ライター：Yukie, Satoshi, Miyumi

翻訳：Moeka

デザイン：Yukie

本号は卒業企画ということで今学期をもって引退されるRAの先輩方にお悩みを相談してみました。
興味深い回答ばかりできっと勇気をもらえるはず。
これは覗いてみるしかない！

6F RINTARO



4F HIROKI



5F YUMA



7F LUIGI



9F NAO



9F SAORI



7F YOSHIHIRO



今回協力して
くれたRAさん
たちだよ！

Waravi



「一生大学生のままがいい」

ニックネーム：おジャ魔女ドラミちゃん

お悩み：もうすぐ3年生になるのですが、周りが就活のためにインターンを始めたり、就活の情報を集めたり、自分は置いてけぼりにされている気がします。今私が1番楽しいのは大学に行って、バイトして、恋愛して、友達と遊ぶことです。親には「公務員になれ」、「資格を取りなさい」など散々言われて、もう何も聞きたくありません。なんの為に就活するんですか？就活のためにインターンする方が有利？バイトじゃだめなんですか？就活楽しいですか？皆さんの生きるモチベーションを知りたいです。就職のことを考えると勉強もしたくないです。だったら全部やめちまえ！と思うけど、そんな勇気もありません。一応「早大生」というプライドからもプレッシャーを感じます。ただの愚痴みたいになって申し訳ないのですが、どうかRAさん達のお力を貸してください、よろしくお願いします。

HIROKI

ご投稿ありがとうございます。以下、あくまで私見になりますが、ご参考となれば幸いです。就活するしないは突き詰めて考えれば、個人の自由かと思います。したからといって褒められることでもないし、しなかったから非難されることでも、本質的にはないと思います。ここで、重要なのは、するしないに関わらず、自分の選択に対して責任を取る覚悟があるかどうかではないでしょうか。要するに、就活した結果どうなっても、しなかった結果どうなっても、他責にしない、文句を言わないということかと。都合が悪い結果になった瞬間、他人のせいにしてたり、周りの環境のせいにしてたりするのは、とてもダサいと思います。就活に留まらず、自分にとって何がベストかを真剣に考え、覚悟を持って決断することが重要なのではないのでしょうか。

何が有利で何が不利になるかは、誰が評価するかによって、変わりますので、究極的には運の領域かと。「人事を尽くして天命を待つ」ではないですが、自信を持って人に話せるような大学生活を送ることが、学生ができる精一杯かと思います。最後に、生きる上でのモチベーションは、僕の場合は、毎日生きていて楽しい、充実感があるということに他なりません。今日を楽しく、充実した日にしたいからこそ、日々、自分なりのベストを尽くすことを心掛けています。

RINTARO

勇気を出してお悩みを投稿していただきありがとうございます。確かに僕もそれなりに良く、そして学費が高い中高に進んだあと、早大生になったことで、就職活動をするに対して似たようなプレッシャーを感じたことがありました。日本の伝統的な思想である、「いい学校を出て、いい会社に就職して、そこに骨を埋める」というルールをそのまま通ってきてしまったので、僕も就職活動はそのプロセスの一部として受け身的に行いました。なので、僕にとっては就職活動は日本の一般社会でそれなりのステータスを維持するための一つの儀式のような感覚でした。僕は、就活の時期にそれ以外のコミットメントがなかったので、たまたま就職活動だけに時間を割くことが苦にならなかったですが、もし自分の中で他の優先事項があるなら、それを選んでも良いのではないかと思います。実際に、「興味はないけど、就職するために就活をしている」という心理は企業の人事に見抜かれてしまいますから。

その上で、インターンorバイトについて話しますが、これは正直どちらでも良いと思います。僕なら自分が身につけたいと思っているスキルや、会いたいと思う人とつながれそうな方を選びます。僕は、バリスタがかっこいいと思っていた時期はスターバックスでアルバイトをし、綺麗な言葉遣いや作法を学びたいと思った時期はホテルマンをやり、オフィスソフトのスキルやプレゼン能力をつけたいと思った時期は、コンサルのお手伝いの仕事をしてました。いわゆる「長期インターン」などをやっていなくても、この普遍的な経験をもとに、就職活動では、いかに自分が「ビジネスシーンで活躍できる人」に見えるように説明するかが大事だと思います。(つづく↓)

ただ、就職活動に関係なく、自分のコンフォートゾーンからはずれた経験を早いうちに積み重ね、視野を広げておくことは大切です。現在心地よいと感じている大学生活やバイトからは知ることができなかった考え方や、新たな楽しみが見つかるかも知れません。ぜひ積極的に、新しいフィールドに足を踏み入れてみてください。最後に、生きるモチベーションについてですが、僕も正直これを明確に特定できていません。最近僕が観た映画に「October Sky」というものがあるのですが、これは、ロケット開発に興味を持った炭鉱生まれの少年が、親や教師の反対を押し切り、炭鉱で働くという定められた運命に抗い、NASAのロケット科学者を目指すという話です。僕はこの作品を観てから、自分が生まれた社会経済ステータスを脱却し、思想や経済的な自由を手に入れるということを生きるモチベーションにすることはできないかと考えていました。難しくかたい話になってしまうので、これまでにしておきます。

「眠れない」

ニックネーム：紙のグミ

お悩み：最近あまり眠れません。夜寝ようとしても目が覚めてしまうし、4時頃ようやく寝るのが日常になってきています。どうすれば私は寝れますか？？

YOSHIHIRO

僕は「人は体温が下がるときに眠気を伴う」と聞き、個人的に寝る前にはお風呂で温まる(時々マッサージも)ことをしています。WISHには大浴場もありますし、周辺には銭湯(オススメ：小杉湯と昭和湯)もあるので、試してみてくださいはいかかですか？感染予防を忘れずに！！

NAO

寝れないと元気がでないし辛いですよね、体壊してないですか？大丈夫ですか？？眠れない原因は身体的と精神的なもの2つあると思うのですが！前者ならばもうとにかく疲れる一日を過ごす、もしくは次の日の夜まで寝るのを我慢して新しく睡眠サイクルを作る！後者ならばLINEください、一緒に考えます！

「マスク」

ニックネーム：伊達巻き

お悩み：マスクを毎日つけているからか、人と話す機会が減ったからか、表情が暗くなった気がしています。コロナ禍でも気持ちを上向きにする気晴らしの方法を教えてください。

SAORI

顔体操ですかね。

YUMA

昔のルーティーンを再度試す。予定を立てて手帳などに書き出す。気の置ける友人に話しかける。これらを実践してはいないのですが真剣に考えてみました。

LUIGI

コロナ禍で人との繋がりは薄くなっていると僕も感じていますね。まず、本当に大切な人との繋がりに力を注ぎましょう！自分の大切な人とはつながり続けましょう！これらの関係はあなたの気持ちを楽にしてくれると思います。また、こんな時だからこそ、新しい出会いではなく1人でも楽しめる夢中になれることを見つけましょう！達磨遊び、空手、生花、ランニングなど、特殊なものでも選択肢は無限にあります！最後に、本当に困ったときはマスクの中で変顔しましょう。

皆さんありがとうございました。
今回は8FRA miyumiさんの愛猫、waraviにも友情出演してもらっちゃいました！次回もお楽しみに。

Contributions

Writers



Haruka



Koki

Translators

Designers



Naomichi



Yui



Ainun



willian

RA Supporters



Satoshi



Moeka



Miyumi



Renuka



Yuma



Yukie